

# 道における「ヤングケアラー実態調査」について（案）

## 調査目的

「ヤングケアラーと思われる子ども」等の道内における実態を把握し、今後の支援に向けた施策検討に活かす。【国調査結果とも比較】

## 調査定義

本調査では、「ヤングケアラー」について、「本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」と定義。（国：～子ども自身がやりたいことができないなど子ども自身の権利が守られていないと思われる18歳未満の若者）

## 調査内容 【札幌市 立除く】

① 中高生の生活実態に関するアンケート調査（道内公立中学校・高校に在籍する2年生全員を対象に用紙配布。Webで回答）

② 中学・高校における学校でのヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査（道内全公立中学校・高校に用紙配布、Webで回答）

③ S S W（スクールソーシャルワーカー）のヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査（道内のS S Wに用紙配布、Webで回答）

## 調査項目

### ① 中高生の生活実態に関するWebアンケート

【ヤングケアラーの実態や認知度について】

- 世話が必要な家族の有無
  - ・ 中学、高校の別
- 世話をしている家族やその状況・対応者等
  - ・ 父母、きょうだい、祖父母 など
- 社会資源（サービス）との繋がり等
  - ・ 医療、福祉サービス、ヤングケアラーとの繋がり
- 世話の頻度
  - ・ ほぼ毎日、週3～5日など
- ヤングケアラーの認知度
  - ・ 聞いたことがある、ないの別

【学校生活などへの影響について】

- 学校への通学や遅刻、早退の状況など
  - ・ 学校に行けない、遅刻(早退)してしまう、勉強する時間がとれない など
- 進路への影響（高校生のみ）
  - ・ 進学をあきらめ就職を考えている、進学(就職)を自宅から通えるところに変更 など
- 世話について感じていること
  - ・ 身体(精神的)につらい、やりがいがある など
- 悩みや困りごと
  - ・ 友人、学業成績、進路、経済的状況 など

【相談の有無や必要と思われる支援等について】

- 世話について相談した経験
  - ・ ある、なしの別
- 世話について相談したことがある場合の相談先
  - ・ 家族、友人、学校の先生、S S W、役所、SNS など
- 世話について相談したことがない場合の理由
  - ・ 相談するような悩みではない、家族のことを知られたくない、誰に相談すべきかわからない など
- 学校や大人にしてほしいこと、必要な支援
  - ・ 話を聞いてほしい、相談に乗ってほしい、自由な時間がほしい など

### ② 中学・高校へのWebアンケート

- 学校の体制、学校以外の外部支援に繋いでいるケースの有無
  - ・ 校内の検討体制、要保護児童対策地域協議会との連携 など
- 「ヤングケアラー」の認知度及び対応
  - ・ 言葉を認識、学校としても意識して対応、言葉を認識しているが学校として特別な対応なし など
- ヤングケアラーに該当する子どもの有無、実態
  - ・ 家族に代わり家事をしている、目が離せない家族の見守りをしている など

### ③ S S W（スクールソーシャルワーカー）へのWebアンケート

- ヤングケアラーに該当する子どもへの対応の有無、内容
  - ・ 要保護児童対策地域協議会への通告有無、直近の対応ケースへの対応内容 など
- ヤングケアラー支援にあたっての課題
  - ・ ヤングケアラーの認知度を上げること、S S Wなど専門職の配置を充実すること、校内に検討組織をつくること、学校が相談できる機関があること など

相談の流れ

比較

## 国における 論点や 課題

① 早期発見・把握～ヤングケアラーは支援が必要であっても表面化しにくい構造。適切な支援に繋げるためにも早期発見・把握が必要。

② 支援策の充実～孤立しやすいヤングケアラーをどう支援するか。また、子どもであることを踏まえた支援が必要。

③ 社会的認知度の向上～ヤングケアラーの社会的認知度を高めることにより、上記①、②を促進していくことが重要。